



室堂の高い山から南西の方角にみえる薬師岳

北アルプス 廃道寸前の伊東新道を 湯俣温泉に下った1979年夏(2)

北鎌尾根ルートからの槍ヶ岳登山は憧れの対象であった。少しの岸壁経験でやれると生意気をするときをみる。山歩きをして1年か2年で岩登りの真似事をした男がベテランと2人で北鎌尾根ルートで槍ヶ岳に登ろうとした。疲労と恐怖が頂点に達して岩稜へへたり込んで泣きだした。登山はいつでも英雄主義がつきまとい、わが身を省みず雑誌の世界の英雄に自分を写すことがある。生意気かつ軽薄な男の北鎌尾根でのさまであった。

湯俣から吊橋を渡り湯俣川との合流点を水俣川沿いの道をとって進めば北鎌尾根ルートにさしかかる。現在の北鎌尾根ルートはかつての伊東新道と同じように崩壊が進行している。上流の吊橋は落ちていて一般道としても面影は全くない。千丈沢と天丈沢の合流点を含めて千天出合までの行程の崩落は激しい。岩稜と岸壁の登山の技術を要する北鎌尾根よりも途中の崩壊地を通過することのほうが難しい。

登山地図に明瞭にルート表示されていてもそれを真に受けてはいけぬ。その情報は過去のものである。情報が地図に記載されたその翌日に事実は変化しているかも知れない。1979年夏に地図を首をかしげながらの伊東新道の下山路であった。

恐怖に震えての伊東新道下山を経験した。岩稜登山は手足3カ所を付けていれば安定は確保できる。下は奈落の底の急斜面であれば踏み跡の消えた砂地を歩くことは運を天に任せたものであった。くわばわくわばらの下山路であった。

このような危険に遭遇するくらいなら槍ヶ岳をへて上高地に向かうのであった。伊東新道はなぜ崖崩れと吊り橋が壊れて廃道をよぎなくされたのか。関係者が要因を指摘しているのでそれを拾い上げて考察をする。

伊東新道は1953(昭和28)年から着工、3年後の1956(昭和31)年秋に完成した。この道を使って7年がかりで三俣山荘と雲ノ平山荘が建てられた。登山路は北アルプス最奥地へのルート開拓とあわせて山小屋設営が目的であった。

1979(昭和54)年、高瀬ダムで大量の水を貯水したことにより付近の地下水面が上がった。ダム周辺の山全体が膨らんで崩れやすくなったのである。湯俣の谷も各所が崩壊、棧道も落ちた。湯俣川のあちこちから出ている亜硫酸ガスは吊り橋のワイヤーを腐食させる。1969(昭和44)年からの高瀬ダムの工事により登山者が激減した。ダムゲートでの交通の制約とともに大町からのバスが廃止された。このために高瀬からの入山者が激減した。

登山者が大きく減ると登山道は廃れる。伊東新道は5つの吊り橋が全部落ちてしまった。1983(昭和58)年には通行困難な状態に陥り廃道となった。

雲ノ平に下る三俣蓮華岳の麓に行くには、上高地からと烏帽子から行く2つの道があった。どちらからでも2日かかりである。悪天候になればさらに日数が増える。往復には4日かかる。ヘリコプターで資材を運搬するのはのちに始まったことである。戦後すぐのところには人が荷を背負って行くしかなかった。山小屋を建てるためには1日で登れる道が求められた。

戦後1年目の1946(昭和21)年、伊藤正一氏が湯俣川を下ったのち谷全域を調査するために7年間を費やした。伊東新道の建設工事着工は1953(昭和28)年である。ダイナマイトによって岩壁を打ち砕いて道をつけた。3年後の1956(昭和31)年秋に伊東新道は完成した。

1963(昭和38)年になって三俣山荘と雲ノ平山荘が完成する。歩荷による資材の運び上げであった。伊東新道が開通してから7年がかりの建設工事であった。三俣山荘ならびに雲ノ平山荘は北アルプス最奥地に安全に分け入ることに大きな役割を担った。山小屋は暴風雨から登山者の身を守るのに欠かせない。ことに大衆登山が普及するほどに山小屋のもつ意味は大きくなる。山小屋が

あることによって小さな装備で迅速に北アルプスを歩くことができる。

北アルプスの槍ヶ岳をめざしての大縦走コースの裏銀座登山路はずっと槍ヶ岳を眺望する。遠くに浮かぶ槍ヶ岳ほど神々しい山はない。伊東新道は湯俣川の谷に深くはいるまでは槍ヶ岳をみながら歩くことができる。湯俣川の槍ヶ岳眺望の地である展望台までのコース、つまり三俣山荘から片道2時間の道が整備されている。往復4時間のコースで槍ヶ岳の眺めを堪能することができる。険しい硫黄尾根の景色は圧巻である。鷲羽岳の森林の緑は雄大である。湯俣川はさまざまな水の色をみせる。

伊東新道の復活のための取り組みがなされている。つくってもまた崩れるという状態の湯俣川沿いの道である。尾根筋つまり稜線の道は安定しているが、谷筋の道は壊れやすい。上高地にむかうターミナルの地、沢渡に橋が架けられて新道が通ると、旧道はすぐに崩れ落ちた土砂で道が消えてしまった。

ダムをつくると流れ込む川筋の地下水位が上がって膨張現象が発生して、思わぬ事象を引き起こす。日本の谷は深く急峻であり崖はつねに崩れている。手の施しようがないといえる。上高地の玄関口の釜トンネルの下流の梓川の崩落現象をみればわかる。

湯俣温泉に1つだけ開いている晴嵐荘は青空の下にあった。山小屋で心地ついた夕食には山菜の天ぷらがでた。晴嵐荘では都はるみのレコードを大音量で流していた。CDのない時代である。レコードから直に音を取っていたのかテープを回していたのかは覚えていない。ずっと都はるみなのである。音楽はよいものだししみじみと思った。オーディオもよいものだとともに。晴嵐荘の老夫婦は都はるみが好きなのである。オーディオはどのような内容のものだったか覚えていない。だれはばかりことなく大音量で都はるみを流しているその無邪気さがあった。1979年夏のことである。湯俣温泉は晴嵐荘だけが営業していた。いまでも同じである。少し下ったところにある湯俣山荘があるがずっと営業はしていない。

命を運に預けるような崩壊した伊東新道を下って晴嵐荘で生きた心地になる。都はるみのレコード大音量で流しているを無邪気な晴嵐荘の老夫婦であった。これは平和な光景なのかも知れない。宿泊者に昆虫好きの青年がいた。虫をひよいとつかまえて何々だと教えてくれた。虫をみるために山を歩き晴嵐荘に立ち寄ったのであった。宿泊者はこの人だけであった。湯俣川の下流には葛温泉がある。その先は高瀬ダムである。川は大町に流れ下って不思議な大迂回をして川中島を流れて行く。その先は信濃川となって日本海に注ぐ。山道には昆虫に目を向けている人もいるのである。25歳を超えない青年であった。昆虫の知識をどのようにして得て、興味をどのようにつけているのだろうか。

槍ヶ岳から穂高岳に向かう登山を途中でやめての大町方面への下山であった。余った日取りを葛温泉でのくつろぎに費やした。大町は立山登山、剣岳登山ほかで何度も足を運ぶことになった。(写真と文は甲斐鐵太郎)



1979年当時「晴嵐荘」は都はるみの歌が大音量でかけられていた



湯俣温泉「晴嵐荘」の食堂の様子



計測と科学

毎週日曜日発行

日本計量新報社

東京都千代田区神田錦町3-11-8

(武蔵野ビル)

〒101-0054 TEL 03-3295-7871

FAX 03-3295-7874

http://www.keiryu-keisoku.co.jp/

振替口座 00140-5-12935

購読料年間25,000円(消費税別)

定量計量専用機



速くハカル、

楽にツメル



Yamato

大和製衡株式会社 tel:078-918-6577

http://www.yamato-scale.co.jp/

今週の主な記事

- ⑧ 山口県計量検定所「特定非常災害」指定
- ⑦ オール事業拡張、自動捕捉式ばかりJIS改正 A&D新製
- ⑥ 寄稿(田村希志)・社説
- ⑤ NMS研究会報告
- ④ 盛夏署名広告
- ③ 寄稿(切田篤・石井康二)
- ② 2019年3月期第1四半期決算
- ① フォトエッセイ 北アルプス(2)



¥33,000(税抜)

PDX パワートラックスケール

～新技術採用ロードセル使用～



「はかる」を支える。タナカ技術

和算箱不要



リモートモニタリング



自己診断機能



- ◎ 保護等級 IP68・IP69K
- ◎ 落雷に強い耐久性
- ◎ 過荷重に強い



国内初！10年保証プランをご提案。

株式会社 田中衡機工業所

URL <http://www.tanaka-scale.co.jp/>

本社・新潟支店	〒959-1145	新潟県三条市福島新田丙 2318-1	TEL: 0256-45-1251	FAX: 0256-45-2204
東京支店	〒101-0061	東京都千代田区三崎町 2-6-7	TEL: 03-3263-4531	FAX: 03-3262-6918
関西支店	〒564-0063	大阪府吹田市江坂町 2-13-2	TEL: 06-4861-2266	FAX: 06-4861-2277
東北営業所	〒983-0021	宮城県仙台市宮城野区田子 3-1-5	TEL: 022-388-6401	FAX: 022-388-6402
福岡営業所	〒816-0823	福岡県春日市若葉台西 6-47	TEL: 092-572-1822	FAX: 092-571-2462